



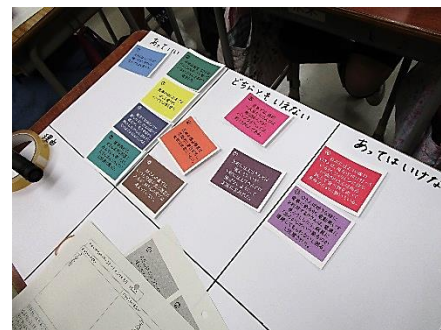
共に生きる社会のこと、働くことなどを学んでいます

十八中には現在 262 名の生徒がいます。豊中市の中学校で一番小さい学校です。「十八中の生徒」といえば一つにまとまりますが、一人一人は、当たり前ですが、性格も、体型も、考え方も、立場もそれぞれ違う存在ですね。

いろんな違いを持った人々が集まって社会を作っています。違いを認め合い、活かし合えば、その社会は暮らしやすい社会になります。十八中という“ミニ社会”も、そんな安心、安全で元気の出る社会をめざしています。

しかし、違いを認め合えないと、「排除＝のけ者にすること」や「いじめ」、「差別」が生まれます。十八中を卒業した後のみなさんが、居場所となる大きな社会の中で、心地よく過ごすためにも、また、安心して元気の出る社会を作っていく一人になるためにも、今各学年で「共に生きること」や「働くこと」について学んでいます。

1年生 — 「ちがいのちがい」で考えました（10月22日）



①～⑫のカードに書かれている内容が、「あっていいちがい」なのか「あってはいけないちがい」なのか、「どちらともいえない」のかグループで話し合いました。

例えば、①のカードは、「Aさんはニンジンが嫌いだが、Bさんはなんでもよく食べる。」
楽しそうに意見を出し合いながらも、真剣にカードを分類する姿が見られました。

世の中にはたくさんの「あっていいちがい」「あってはいけないちがい」「どちらともいえないこと」があるはず。少し意識して自分の身の回りを見つめてみることも大事ですね。今後さらに、日本で生活する外国にルーツのある方などからも、学びながら学習を進めていく予定です。

2年生 — 職場体験学習の聞き取りをしました（10月19日）

2年前までは、実際に地域の事業所に行かせていただき、体験を通して、「働くこと」で大切にしていることや、やりがいなどを教えていただきました。コロナ禍の影響で、去年からは学校にゲストティーチャーをお招きして、「働くこと」についての聞き取り学習をしています。

今年度来ていただいたのは、美容師のAさん、獣医のBさん、保育士のCさん、本や雑誌の編



仕事の楽しさを語るDさん

集者のDさんの4名です。それぞれのグループで聞き取ったお話を、他のグループにも伝わるように、画用紙にまとめて教室や廊下に貼ってあります。

「小さなことにとらわれずに、人と人とのつながりを大切に仕事をする」「誰かのためであることがうれしい」「自分の“好き”を持ち続けることが大切!」「お客様のクレームもプラスに考える」…たくさんの大切な言葉や思いが画用紙に記されていました。どのグループも有意義な聞き取りができたようですね。

次の「地域の事業所応援」や、自分の将来を考えることのヒントになればいいですね。Bさんも、中学の時の職場体験が今のお仕事のきっかけになったそうですよ。

3年生 — 「学ぶこと、知ることの大切さ」を教えてくださいました（10月20日）

3年生は、これまで学んできた部落問題学習のまとめとして、豊中国際交流協会のEさんからお話を聴きました。Eさんは、生まれ育った地域のこと、ご自身のルーツのこと、自分自身が体験した差別のお話などを、「みんなに祈りを託す」ような思いで語ってくださいました。

社会のこと、人権のことを正しく学んでいなければ、「自覚のないままに差別をしてしまうことにもなりかねない」と、今世の中で起きている事例をあげながら、伝えていただきました。社会のこと、という少し遠いことと感ずるかもしれませんが、



まずは、自分のそばにいる人のことを知ることや、自分自身のことを周りの人に知ってもらうことから、始まるのだとお話を聞いて感じました。人の大切な話を、「そんな関係ないやん、気にせえへんかったらいいやん。」ではなくて、「プレゼントを受け取る時のように両手で受け止める」・・・今度の修学旅行では、そんなクラスミーティングになればいいですね。

後期生徒会がスタートしました!・・・みんなで生徒会を盛り上げよう!



後期生徒会がスタートしました。まずは、十八中を良くするために勇気を出して立候補した9名に拍手を贈りたいです。昨日は後期第1回目の生徒集会が行われました。「生徒会だより」がタブレット配信になり、早くも公約を実現したスタートとなりました!新役員は、会長:Fさん(2-1)、副会長:Gさん(2-1)、書記:Hさん(2-1)、書記:Iさん(2-2)、会計:Jさん(2-2)です。